

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (相可高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の夢をかなえる学校 ・地域と共に歩む学校 ・教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校
(2)	育みたい 児童生徒像	夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
	ありたい 教職員像	生徒の学力向上に努めるとともに生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員 同僚性を発揮するとともに互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの要 求・期待		生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と 連携するうえでの 要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	生徒：わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実 地域社会：地域活性化への貢献 関係企業・団体等：話題性によるイメージの向上	保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 地域社会・企業等：教育活動への理解・協力・支援、学習成果を公表・活用する機会の提供	
(3) 前年度の学校 関係者評価等		○継続中の朝読等の取組について、意義や役割を分析し効果を確認してほしい。 ○基礎学力定着につながる「読み・書き・そろばん」等の学びも重視してほしい。 ○部活動について、限られた時間を有効に活用するなど改善と工夫を期待したい。 ○生徒の自主性や主体性をより一層伸ばす方向で学校改革を進めてほしい。 ○探求的な学びをするにあたり、まちがっても安心して発言できる環境作りや学びのルール徹底なども十分考慮していただきたい。 ○外国の生徒との交流等のチャンスは色々な場面で生かしていただきたい。 ○総勤務時間縮減に向けて、教職員の勤務の在り方を見直していただきたい。	
(4) 現状と課 題	教育 活動	○普通科について、希望進路の90%が進学となる中で、より一層効果的で適切な教育課程や指導の在り方が課題となっています。 ○「主体的・対話的で深い学び」については、本年度から「探求 起・承・転・結」という名称で年度更新のもと3年計画で実施します。 ○グローバル化や地方創生等に対応できる学力を持った生徒の育成が必要です。 ○生徒の学力をより一層確実に定着・伸張させるために自宅学習や補習の在り方について研究し実施する必要があります。(昨年度からの継続課題) ○学校全体に落ち着いてともに学ぶ雰囲気があり、自他を大切にしている心が育まれています。さらに一層工夫して自尊感情の醸成や役立ち感を実感できる教育の充実に取り組む必要があります。	
	学校 運営等	○勤務時間を超えて分掌業務、部活動指導業務等に従事するなど恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の補習・会議等で多忙感を感じている職員がいます。 ○授業・分掌業務・部活動指導等について、協力・協同して取り組む体制を確立するとともに質を重視した見直しを行い、教職員がライフワークバランスを図りつつ、やりがいを実感できる学校づくりを進める必要があります。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしています。 ○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献しています。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○「皆がやりがいを実感する学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足しています。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導・キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入試新制度や企業や社会が求める人材像等について情報収集と情報共有に努めるとともに、指導に反映し、生徒の進路を保障します。 ○「命を大切にす」「政治的教養を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組みます。(生徒会による朝のあいさつ運動、LHRや集会等を活用した呼びかけや講演会、生徒の興味・関心・意欲を引き出す独自の取組等を通じて自尊感情や役立ち感の醸成に努め、自信を持って安心して学べる学校作りを進めます。また、人権教育や道徳教育についてもテーマや方法を工夫して実施し、自分や仲間及び他人や弱者を大切にすることができる豊かな人間性を育む取組を実施します。) ○探求学習については、1年生から年度更新で実施し、課題を整理しながら改善し、より一層充実した取組となるよう取り組みます。 ○各学科の特色を生かした資格取得への取組により一層力を入れるとともに、昼学(毎週水曜日の昼休み後の学習)を実 		

	<p>施し、語彙力、表現力、思考力等の育成を図ります。</p> <p>○DCTや特別活動の時間を活用し、キャリア教育の充実を図るとともに、自ら実践したことを「学びの履歴」として記録することで、主体的に取り組む態勢を作ります。</p> <p>○グローバル・ブランドの開発については、関係機関等との連携を図りながらSPH事業の中で計画的に実施します。また、全ての学科で外国の生徒との交流の機会を持ち、グローバル社会で活躍する人材育成に資する取組を実施します。</p> <p>【活動指標】探求学習の実施、各学科の特色を生かしたキャリア教育の実施 【成果指標】学習指導、キャリア教育、探求学習に満足と答えた生徒の割合 90%以上</p>		
改善課題			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組	<p>○「主体的・対話的で深い学び」について、各教科・科目での取組の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】各教科での「主体的・対話的で深い学び」の実施 【成果指標】各教科での「主体的・対話的で深い学び」の実施 100%</p>		
少子化を見据えた活性化策	<p>○相可高校ならではの特色ある学習活動を、地域社会と連携して実施し、地域社会に貢献します。(地域から信頼され必要とされる学校作りを進めます。)</p> <p>○中学2年生を対象とした学校説明会を実施するなど、学校説明会の一層の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】地域と連携して実施する相可高校独自の取組 【成果指標】地域と連携して各学科で実施する相可高校独自の取組 100%</p>		

<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○教育活動に対してすべての教職員が法令遵守のもとで、協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革を図ります。特に、部活休養日と定時退校日について具体的な数値目標を設定し、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p>【活動指標】 週 1 回の部活休養日 月 2 回の定時退校日 放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合を 80%</p> <p>【成果指標】 週 1 回の部活休養日の実施 月 2 回の定時退校日の実施 時間外労働時間 1 時間／月削減 休暇取得日数 1 日／年増加 月 80 時間を超える時間外労働者を延べ 10 人削減</p>		
改善課題			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	
<p>学校運営についての改善策</p>	